

はじめの壱歩！

弐部！

参勤交代！

鳥取A班	にぶ一む		
	文学部	2年	福田浩子
	政治経済学部	4年	竹内和俊
	法学部	3年	藤勝未奈子

目次

1. はじめに
2. 二部地区の現状
3. 政策提言案①
4. 政策提言案②
5. おわりに

1. はじめに

(1) 二部地区と歴史

今回私たちは鳥取県西部伯耆町二部地区へ赴き、「二部地区の歴史を利用した活性化」というテーマのもと二部地区の地域活性化に取り組んだ。

二部地区は古来より交通の要所として栄え、江戸時代には「出雲街道」として松江藩主が参勤交代の折には宿に利用された。また、二部地区一帯は「たたら製鉄」の技術が盛んであり、大正期までたたら地として繁栄した地である。現在にも本陣として使用された足羽家や間地峠、鉄山王の墓などが残され歴史を楽しむことができる地だ。しかし現在は人口減少や高齢化が問題となってきた。

三泊四日という短い期間ではあったが、地元の方々の温かい協力のもと現地で熟議・調査を行った。二部地区の歴史や自然に触れ魅力を感じる一方で、見えてきた課題は「二部地区への移住・定住問題」であった。私たちはこの課題解決への取り組みの第一歩として二部地区を知ってもらうことを目標とし、そのために歴史を活用するという方向で課題に対して取り組んだ。

(2) 目標への道

「二部への移住・定住」最終目的に、「二部を知ってもらうこと」を目標としたうえで、具体的な取り組みを二点設定した。

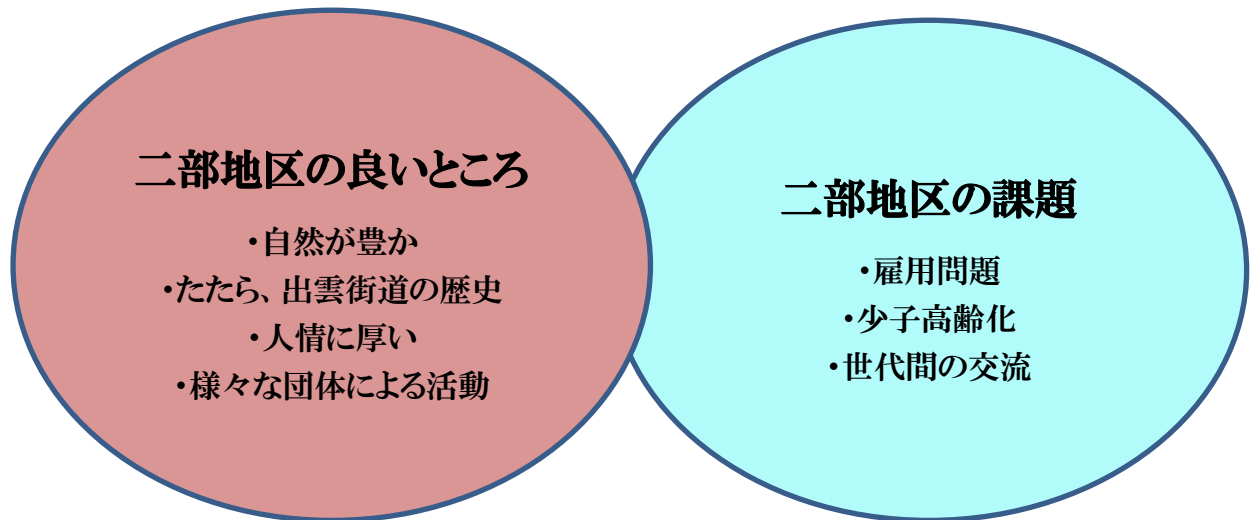
詳しくは3章・4章で紹介するが、一つ目は二部から観光客（外部）に向けての情報発信、二つ目は二部の人々（内部）に改めて二部の歴史の楽しさを知ってもらい、また外部の人々にも二部の歴史を知ってもらい、訪れるきっかけをつくるための「壺歩・弐部・参勤交代」プロジェクト。

二部には「二部地区活性化推進機構」をはじめとし、「歴史ガイドの会」「だんだんプロジェクト」「二部梁山泊」など二部を盛り上げるために多くの団体が、人々が活動している。団体間の交流やまた、新たな活動のきっかけ作りにもなるような取組みとなり、中からも外からも二部地区が盛り上がってほしいと願う。

2. 二部地区の現状

・住民の方々から見た二部地区

熟議の中で住民の方にアンケートを取った、二部地区に住んでいて感じる二部の「良いところ」と「課題だと思うところ」についてまとめる。



<二部地区の良いところ>

上記のほかに、「人の顔がよく見える」「公民館祭り特別展」などが挙げられた。人口が問題にはなっているが、「人の顔がよく見える」「人情に厚い」といった面は繋がりが深いからこそその長所だと考えられる。様々な団体による活動はそれぞれが二部地区をよりよくするために活動を行っていた。歴史、自然はどちらも素晴らしく、特に歴史に関しては二部地区に多くの歴史的なエピソードが残されているなど、とても面白く感じた。

<二部地区の課題だと思うところ>

他に「交通手段が乏しい」「身近にお店がない」「農業後継者の育成」などが挙げられた。交通手段はデマンドバスしか公共の交通機関がなく、店も二部地区に一軒しかない。それらに関連して地区内に就業場所がなく、人口の減少、定住問題の原因のひとつとなっている。世代間の交流は、様々な団体による活動が行われているにもかかわらず、団体同士の交流が少ないといった面がみられる。しかし最近では中間世代がメインに活動を行っている「だんだんプロジェクト」「二部梁山泊」と60代以上の世代が中心となっている「歴史ガイドの会」の交流が行われるなど活動が活発になってきている。

3. 政策提言案①-1

～「歴史マップ」から「観光マップ」～

1. 現状

今までに、二部地区の「歴史マップ」を歴史ガイドの会、ファンクラブ部会の方々が作成してきた。これらのマップには歴史の名勝地が丁寧に掲載されており、その点においては、初めて二部地区を観光させてもらった私たちにとっても分かりやすいものであると感じられた。

また、歴史ガイドの会の方々のお話を聞きながらマップを見ることで二部地区の歴史に対する理解が深まっていくことも感じられた。

しかし、このマップはあくまで「歴史マップ」であり、二部地区の住民（内部の人）が歴史を知る点においては有益であるかもしれないが、観光客（外部の人）の観光したいという好奇心を煽ぐ点はあまりないと考えた。

また、歴史ガイドの会の方々がガイドを実施している点も分かりにくいという意見も出た。更に、現在このマップを設置している場所がないということで、設置場所についても考えていく必要があると私たちは考えた。



*実際に歴史ガイドの会の方が作成した二部地区歴史マップ

2. 今後の展開

- 先ほどの現状で述べたように、「歴史マップ」から「観光マップ」への昇華
(例：コンビニやガソリンスタンドなど車で訪れる場所を地図に掲載)

→二部地区は車社会であるため、観光客も車で訪れることを想定

- 歴史ガイドの会が二部地区の歴史を案内していることをアピール

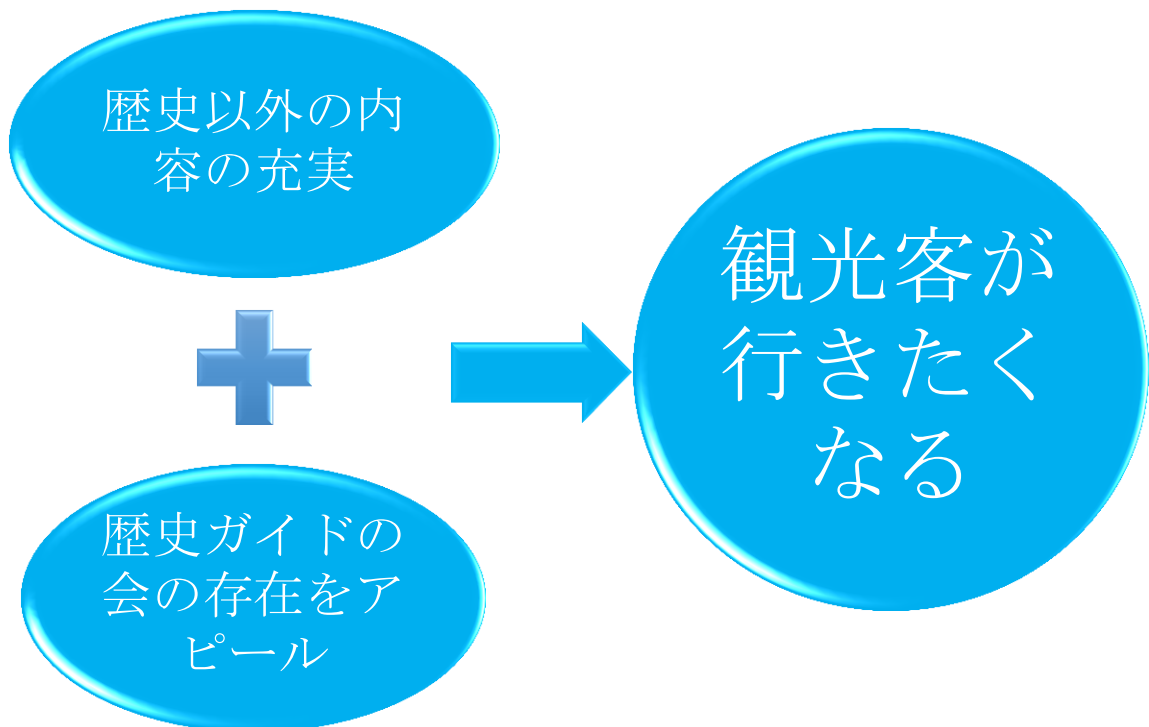
→二部地区の歴史をガイドしている人がいることを外部の人には知られていない (2014年
はわずか3人しか利用していない)

- 設置場所の確保

二部公民館、大山、植田正治記念館、鳥取花回廊、たたら出雲街道に由来する地に設置する

→観光客が大勢訪れる場所であったり、二部地区を訪れて道に迷った人が訪れる二部公民館に設置し、手にしてもらい機会を増やす

⇒これらを通して、二部地区の歴史を観光する人を増やすだけでなく二部地区の存在自体を知る人が増えていくきっかけになると考えた。



政策提言案①ー2

～インターネット・メディアを活用した宣伝～

1. 現状

現在、二部地区の歴史を発信・宣伝する媒体がこれと言って存在していない。これは二部地区の歴史だけでなく二部地区の存在自体を知る機会がないことを意味し、観光客が来ない一因になっていると私たちは考えた。

また、熟議を通して二部歴史ガイドの会からインターネットを活用した PR の必要性を感じていることが分かった一方、歴史ガイドの会は 60 代以上の方が大半を占めるのでパソコンを使うことに踏み出せないことも感じられた。

しかし、だんだんプロジェクト、二部梁山泊などといった 30～40 歳程度からなる団体の方々から、二部歴史ガイドの会と今後連携していきたい、交流を深めたいという声が挙がった。若い世代の方々の助けによって HP を立ち上げ、共に協力関係を築いていけたらと考えた。

2. 今後の展開

● 地域誌への掲載

二部地区の市職員の方が地域誌に二部地区の歴史について掲載することが可能と伺った。二部地区内部の人に対して少しでも PR できる可能性があるのではないかと考える。

● Twitter や Facebook など SNS の活用

現在、日本国内にはおよそ 2000 万人の Twitter 利用者がいると予測されている。最も波及効果がある PR 方法であり、政策提言案②で紹介する壱歩式部参勤交代のような奇抜な取り組みを PR するのは興味を引くと考える。

● HP を立ち上げる

今現在、歴史ガイドの会は HP を運営していない。そして、若い世代の団体（だんだんプロジェクト、二部梁山泊）の方々も歴史ガイドの会や他の団体との交流を深めていきたいと言っていた。また、HP を作ることで改めて二部地区の歴史を知ることでもできると考える。

⇒二部地区の歴史を宣伝する方法の拡大は必要不可欠であり、歴史を活かした活性化というテーマでは避けては通れないと考える。それゆえ、二部地区の住民全体で活性化をする意識を共有することが重要であると考えた。

*実際に私たちのグループで作成したHP

<http://kaz19930225.wix.com/start-from-scratch-n>

二部歴史ガイドの会

二部地区とは鳥取県の西部にある伯耆町に属する地域です。

二部地区は日本三大奇祭である「たごさん」、かつて製鉄で栄え、出雲街道などで知られています。

私たちはその二部地区の歴史を多くの人知ってもらおうと活動している団体です！

このサイトをご覧になって興味が湧いた方は是非、私たちがご案内します！！

お問い合わせ先

0859-62-7159(〇〇)

鳥取県西伯郡伯耆町二部1562番地1

nibukoumin@houki-town.jp



JR米子駅から車で25分

米子鬼太郎空港から車で60分

米子自動車道 溝口ICから車で15分

画像をクリックして見てください！



4. 政策提言案②

二点目の提言として、私たちは地域の方々が一体感を持って取り組める企画として、以下のような企画を考案した。

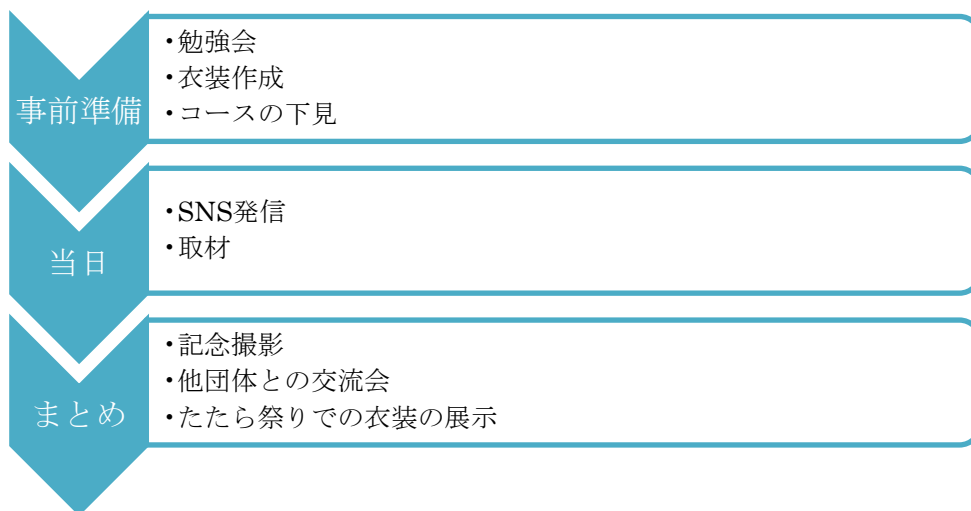


1) 概要

二部宿、足羽家本陣跡から出雲街道を隣の根雨宿までを歩き、参勤交代を体感してもらう。その際当時の衣装も用意し、間地峠も地域の人々で実際に歩いて越える。二部地区は出雲松平藩の参勤交代の際、本陣が足羽家におかれたことで間地峠も整備され出雲街道とともに発展していった地区である。住民の方々の考える二部の良さとして足羽家と挙げる人々も多い。こういった地域に根付いた歴史を生かし、また新たに地域を知って学び、実際に経験することが出来る企画とした。

2) 企画の流れ

企画の流れとしては以下のように考える。



① 事前準備

ここでは勉強会を開き、地域の方々に二部地区の歴史を知ってもらう。歴史ガイドの会によって講師を務めてもらうことで、歴史ガイドの会の教える機会を生む。

衣装作成では子供たちに多く参加してもらい、二部の歴史を知り興味を持つきっかけとなると考える。地域の交流の場にもなる。

コースの下見を行うことで以前から歴史を知っていた人には新たな発見が生じるはずである。

② 当日

企画にみんなで楽しく参加をし交流を深める。その様子を SNS で発信したり、後の地元紙などに掲載することで、二部地区さらには他の地区の人々へ二部の良さを知ってもらう契機となる。

③ 総括

今後の活動につなげるべく、交流を深める。

3) ねらい

この企画のねらいとしては以下のとおりである。

① 歴史に触れる

勉強会を通じて学び、興味を促す。足羽家について知ることで、他の二部地区の特色について知ってもらう。また実際の衣装を着ることで、より身近に体感できる。歴史を知ってもらいたいし、教えたいが機会を持っていないと考える人々が多くいたため、こういった企画にすることで解消できると考えた。

② 世代間交流を行う

子供との関わりを持つ機会だけでなく、地域全体が参加できるようにした。

今回二部活性化推進機構やだんだんプロジェクトなど60代以降の方々と30代の方の積極的な参加は比較的多く見られたが、やはり地区全体の活性化を考えると、10~20代、また40~50代の参加も欠かせないため、当日だけでも参加していただくことで、新たな交流が生まれる。

準備期間から長くかかわっていくことで更なる関係に発展させていくことも可能である。

③ 他の地域、団体との関係を深める

歴史ガイドの会による勉強会、二部地区活性化推進機構による衣装づくりなど行っていくことで他の団体との協力関係を築きあげることが出来る。また今回は二部から根雨であるが、溝口から根雨など範囲を広げていくことで、伯耆町全体を盛り上げていくことが可能になっていくはずである。

5. おわりに

私たちの政策提言では、定住者の増加を最終目的とし、地域住民の方々の第一歩として取り組みやすいであろう地域内の活性化のための企画と広報活動を中心に考案した。まずは身近なことではあるが住民参加が増え、自主的な取り組みが継続されていくことで活性化が促されていくと考える。

もともと二部地区活性化機構やだんだんプロジェクト、二部梁山泊など様々な団体ごとに二部地区のことを思い色々な形で活動はなされていた。今回をきっかけに更なる発展を目指して、団体ごとの交流が深まり、より良い活動が続けられればと思う。

今回3泊4日とたいへん短い期間ではあったが、二部地区の魅力を大いに感じる事が出来た。自然の豊かさや住民の方々の温かさなど都会では触れることのできない貴重な経験ばかりであった。熟議や急な取材にも快く引き受けてくださり優しさに触れた4日間であった。ぜひともこういった二部地区の良さを住民の方々が再確認し、地域活性化されていくとともに他の地域に広く伝わっていくことを願う。

最後に伯耆町役場の後藤さん、鳥取県職員依田さんをはじめ、伯耆町、鳥取県の職員の方々、二部活性化推進機構の皆様など本当に多くの方々の支えによって充実した日々を過ごすことが出来ました。熟議に参加して下さったの方々など本当にありがとうございました。またこのような素晴らしい機会を与えて下さった明治大学社会連携事務室の皆様にも御礼申し上げます。